

## 【事例15】 Stoler/Yogyakarta/Kali Loro 村

### 1. 調査

#### 対象

ジャワ島 Yogyakarta 特別区、Kulon Progo 県(Kabupaten)、Kali Loro 村。

#### 調査者

Ann Stoler

#### 調査期間

1972年5月～1974年2月

#### 報告

Stoler, Anne. 1975. *Garden Use and Household Consumption Patterns in a Javanese Village*. (mimeograph) New York; Department of Anthropology, Columbia University.

Stoler, Anne. 1981. Garden use and household economy in Java. In: *Agricultural and Rural Development in Indonesia*. edited by Gary E. Hansen, pp. 242-254. Boulder: Westview Press.

### 2. 対象の概要

#### 地域の概況

Kali Lolo 村は中央ジャワ南部に位置し、人口約8,000人。人口密度は平方<sup>km</sup>あたり750人で、これは中央ジャワの平均人口密度をやや上回る。

#### 対象集団の概要

村の概要を知るため6つの集落より478世帯を選び、インテンシブな調査目的のため3集落より45世帯を、より長期の調査目的のために45世帯中21世帯を選んだ。

### 3. 調査項目と方法

#### 調査方法

6日毎に訪問、これを1年続けた。世帯メンバー一人ひとりにつき、過去24時間の仕事と食物消費、過去6日間の収入と支出などについて質問。

## 調査項目

家庭菜園規模の分布／規模別年間生産高の比較／生産高の月別変動／食物消費・摂取／収入源。

## 4. 主たる結論

### 家庭菜園規模の分布

敷地内にどれくらいの広さの家庭菜園を持つかは、水田をどれくらい持つかによる。すなわち所有水田規模が小さいほど、家庭菜園の規模は大きくなる。

### 規模別年間生産高の比較

家庭菜園の規模が小さいほどより生産性が高く、よりインテンシブである。根菜類(主としてキャッサバ)が好んで栽培されるからであるが、これらは市場価格は安いものの、土壌、日照、労働投入の多寡などの条件にかかわらず生産高が安定。水田を持たない世帯にとって家庭菜園は、副食のみならず、主食の供給源。

### 生産高の月別変動

菜園生産高をココナッツの生産高に例をとる。菜園生産物高(ただし市場価格換算値)の約40%を占める。全体としてココナッツ生産高の月別変動はほとんどないが、消費および売買は市場価格の変動により上下する。しかしココナッツ所有本数の少ない(家庭菜園の規模が小さい)層では、そのような傾向は見られない。

### 食物消費／摂取

米：所有水田規模と消費単位当たり全食物消費量(ただし市場価格換算値)の間には順相関が見られるが、米の消費量に限ると、この関係はいつそうはっきりしている。

米以外：テンペは米とともに主要な蛋白源であるが、テンペ消費量にも上記米消費と同様な傾向が見られる。van Veen [1971] の知見(下層には、ビタミンA欠乏症が少ない)は、Kali Loro 全体に当てはまる。安価な葉菜(bayung、キャッサバの葉、kangkung、melinjo = *Gnetum gnemon* など)の消費量は、下

層世帯に少ないという傾向は見られない。これらの葉菜は年間を通じて豊富だからである。

### 収入源

所有水田規模と世帯当たり年間収入との間には順相関が見られるが、世帯当たり年間収入を生産単位当りに代えて見ると、この関係はいつそうはっきりする。全収入に占める家庭菜園の割合は、菜園規模にかかわらず20数%でほぼ同一である。しかし所有水田規模の大きな階層では、菜園生産物による収入が水田生産物(米)による収入の半分に過ぎないのに対し、所有水田規模の小さな階層では、他のさまざまな収入源を圧して菜園生産物による収入が最大のものとなる。

## 5. コメント

従来「水田」に比し注目されることの少なかったジャワ島の「家庭菜園」(*pekarangan*) についての調査が1970年代に内外の研究者によって盛んに行われるようになったが、もっとも代表的な調査が、ここに取り上げた Stoler によるものである。

(五十嵐忠孝記)